



追手門学院大学では、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制の整備事業において学生の大学教育プログラムでの学習意欲を高め、大学生活への適応度・満足度を高め、社会的・職業的自立および社会化を支援し、将来わが国の中間層を構成する人材の育成を図る。という目的を達成するために、現在実施しているキャリア教育プログラムの内容に、PBL教育プログラムを中心としたアクティブ・ラーニングプログラムの要素を拡大、発展的に展開させていき、学生自身が気づき、成長するキャリア形成体系を作成していきます。

お知らせ

- 「PBL型授業」に関する基礎知識セミナーを実施します。

実施日時：2013年3月7日（木） 11:00～12:30

対象：本学教職員全員

内容：PBL、PBL型授業の必要性について（就職・入試対策の観点から）

場所：1号館 3階 会議室1AB

- 自己の探求セミナーを行いました。

2013年2月13日、14日に次年度「インターンシップ」の授業を受講する学生を対象として、インターンシップ、その後続く就職活動を有効に活用させるための支援策として、グループワークを中心とした少人数による自己の探求セミナーを行いました。

P B L ～プロジェクトベース学習 (PROJECT-BASED LEARNING) ～

PBL とは

PBL とは北米ではじまった「問題解決型授業」のことで最近、欧米の大学で急速に普及しています。

教員はまず学生に課題を出します。このとき幾つかのインストラクションはしますが、あくまで学生が自主的に学習して授業の準備をします。1つのテーマに対して、幾つかのグループに分かれて作業を分担し、授業を行います。主に学生同士の質疑応答で授業は進行します。教員の発言は10%以下にするというのが原則です。

PBL の目的

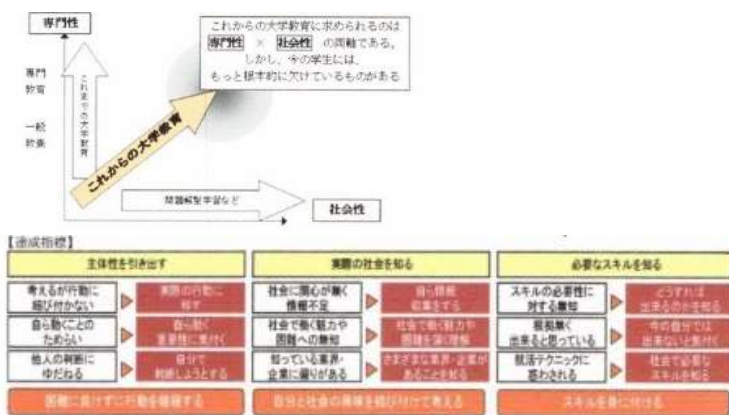
PBL は自立学習を目標し、学生が主体性を持って自らの将来を見通した自己学習力を高め、自分の専門分野に置ける確固たる基礎学力とその応用力を身につけさせることが目的です。社会に出て新たな問題と遭遇したときに、その問題を解決するための方法を身につけます。

大学に必要な教育とは？

大学生が知るべき社会と、体験すべきことは何でしょうか。

「就職のための情報」ではなく「就業に生かせる社会の真実」を知ることが必要です。主体性を引き出し、社会・企業の実態に触れ、社会で必要なスキルを知ることです。

PBL 授業は、学生の主体的な学習活動が中心の授業です。教員の役割は何かを教えることではなく、学生の学習を支援します。



(出所)産学協働就業力育成シンポジウム 2012 冊子(P11-P13)

【参考資料】

- ・産学協働就業力育成シンポジウム 2012 冊子 (P8～15) Future Skills Project 研究会
- ・「日本 PBL 研究所」<http://www.pbl-japan.com/> (2013/1/29 アクセス) ・『VIEW21』大学版
- ・2012 特別号 ベネッセコーポレーション

2012年11月27日 経営力革新フォーラム～企業人に学ぶ“働く”ということ～



産業界のニーズにおける教育改善・充実体制整備事業」の取組の一つとして実施致しました。

「経営力革新フォーラム」とは、企業トップマネジメントの方を講師として講演会を実施し、企業の方と学生と一緒に講演を聴く。講演会の後、交流会にて、貴重な交流の場とすることを目的として開催しました。

講演者

第1部 浜村寿紀氏（共同通信社デスク）

第2部 木村皓一氏（株式会社ミキハウス 代表取締役社長）

参加人数

企業人 83名

学生 127名

中小企業診断士を招いて授業を行いました。

テーマ：職業理解とビジネス体験

講師：北村 直行氏（中小企業診断士）

第1回 2012年12月12日 内容：広告技術を学ぶことで伝えることを磨く

第2回 2012年12月19日 内容：ビジネスモデルを知ること、企画力を磨く

第3回 2013年1月9日 内容：いろいろな業界の仕事を参考にして読み解く力を磨く。



追手門学院大学の図書館では東洋経済のデジタルコンテンツライブラリーを導入しています。

デジタルコンテンツライブラリーでは

東洋経済新報社が刊行する、経済・ビジネス・企業情報誌を検索・閲覧ができます

総合経済誌「週刊東洋経済」、日本の上場会社を知るための定番ハンドブック「会社四季報」、中立・客観的な就職情報誌「就職四季報」をはじめ、東洋経済新報社が刊行する主要雑誌を収録しています。



時と場所を選ばない利用（スマートフォンでも利用できます）

自宅での企業研究・面接直前の会社情報・最新記事のチェックなど、時と場所を選ばずに利用できます。

自己の探求セミナーを行いました。

2012年2月13日、14日に次年度（2013年度）「インターンシップ」の授業を受講する学生を対象として夏季休暇中に実施されるインターンシップ、その後に続く就職活動を有効に活用させるための支援策として2日間にわたりグループワークを中心とした少人数による自己の探求セミナーを行いました。



参加人数：200名

「PBL 型授業」実施状況把握のためのアンケート調査
および「PBL 型授業」に関する基礎知識セミナー開催について(ご協力お願い)

専任教員各位

経済学部 土肥廣幸

本学は平成 24 年度文部科学省補助事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受け、参加 14 校と連携の上、調査・実践に着手しております。

中でも、取組テーマⅢ「領域・規模別産業界ニーズをふまえた教育手法・手段の開発」委員会においては、インターンシップ・PBL を主軸として、既存の教育プログラム・支援ツールの検証を行い、大学・産業界連携の下、より効果的な教育プログラム・支援ツールの開発を企図しており、本学においてはこの事業への参画を通じて、産業界及び他大学との協働体制を強め、本学の優位性・個性を再認識しうる教育プログラム・支援ツールの開発・定着を目指しております。

現在の取組として、本学学生の採用・インターンシップにおいて協力度の高い企業等約 700 事業所に対して「産業界からの大学教育ニーズに対するアンケート」調査を実施し、大学教育ならびに本学教育に対するニーズ・評価を調査しております。

「産業界からの大学教育ニーズ」調査後の取組み課題は、以下の 2 点です。

- ① 对学生への課題：従来の教育プログラム・主体的学びを促進する教育プログラム展開
 - ② 对産業界への課題：本学教育内容への理解・協力促進
- ①・②を同時並行的に推進するためには、従来から実施しているインターンシップに加え、近年多分野の教育領域で導入・実践が進んでいる PBL を本学においても充実させていくことが有効だと考えます。

つきましては、2012 年度の取組として以下の 2 件を計画しております。

①PBL、PBL 型授業実施状況把握のためのアンケート調査

対象	本学専任教員全員
内容	各教員の PBL、PBL 型授業実施状況について 各教員の PBL、PBL 型授業導入・実施への関心・ニーズについて PBL、PBL 型授業導入・実施における制約に対する解決・改善策について
実施時期	2013 年 2 月 1 日～2013 年 2 月 15 日
提出方法	・学事課もしくは非常勤講師授室内に設置のアンケート回収箱までご提出 ・UNIVERSAL PASSPORT アンケートにご回答 ※上記いずれかでご協力をお願いいたします。

②PBL、PBL 型授業に関する基礎知識セミナー

対象	本学教職員全員
内容	-PBL、PBL 型授業の必要性について(就職・入試対策の観点から) -事例紹介
実施日	2013 年 2 月 7 日(木)11:00～12:00
場所	1号館 3階 会議室 1AB
講師	西へクセツコーポレーション大学事業部 (「Future Skills Project」委員会担当者予定)

本学における PBL、PBL 型授業実施状況を把握し、今後の展開についての課題及び対策を明確にするため、アンケート調査へのご協力ならびに PBL についての知識・情報共有のための説明会へのご参加をお願い申し上げます。

◆◆本件に関するお問い合わせ先◆◆
経済学部：土肥(内線:6066)
学事課：竹内(内線:2503)